

まちで、みんなて認知症をつつむ ～大牟田市の取り組み～

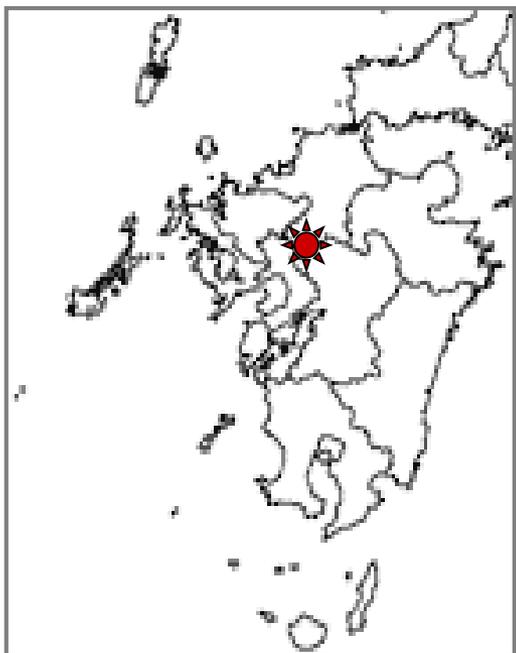
小規模多機能の介護保険前の
認知症支援 研修会



大牟田市小規模多機能型居宅介護事業所連絡会

福岡県大牟田市の概況

～やさしさとエネルギーあふれるまち・おおむた～



かつては炭鉱のまち
(平成9年三池炭鉱閉山)
今、大牟田は
人にやさしいまちへ



重要港湾 三池港

- 大牟田市の人口
約210,000人 ⇒ **約121,600人**
(1960年) (2014年)
- 高齢者数 39,365人
高齢化率 32.4%(2014年4月)
31.1%(2013年4月)
30.1%(2012年4月)



大正時代の七浦坑

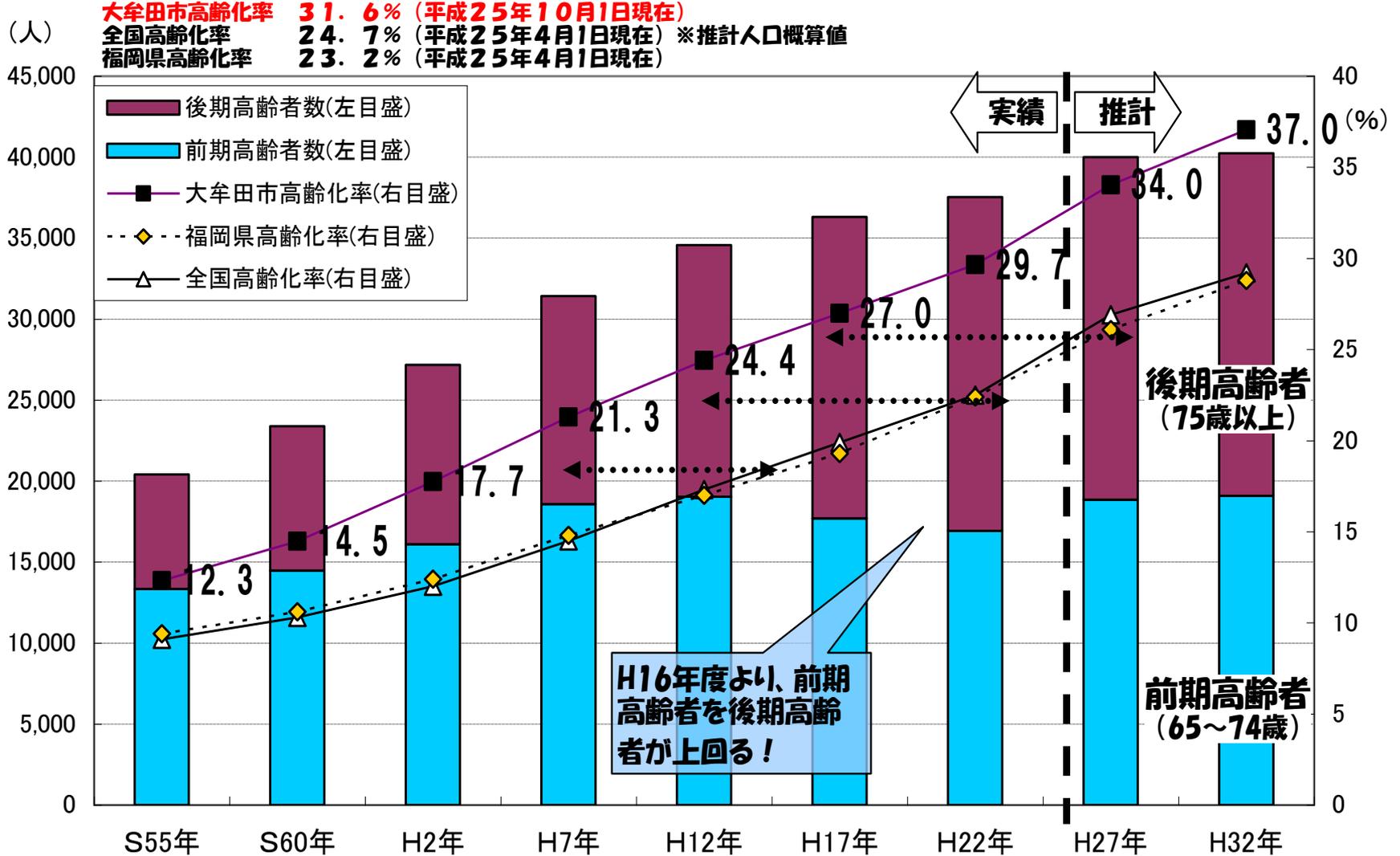


宮原坑 (重要文化財)

- 全世帯数 57,354戸
- 高齢者のいる世帯
29,225戸(50.9%)
高齢者単身世帯数
13,174戸(23.0%)
(2014年4月)

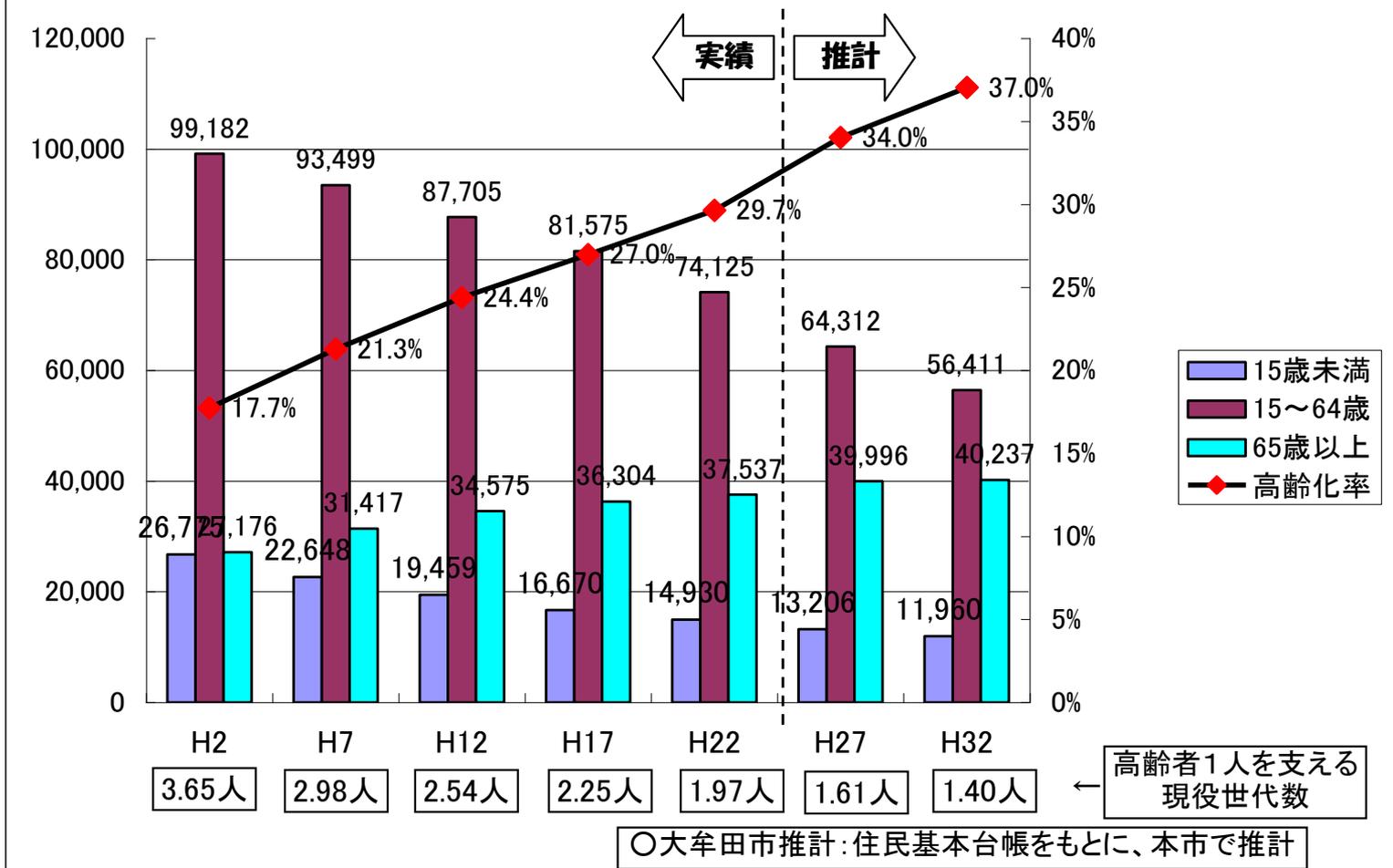
平成25年9月、今年度の世界文化遺産政府推薦案件が、「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」に正式に決定！！

大牟田市高齢者の推移



○大牟田市推計:住民基本台帳をもとに、本市で推計
 ○全国・福岡県推計:国立社会保障・人口問題研究所(平成19年5月推計)

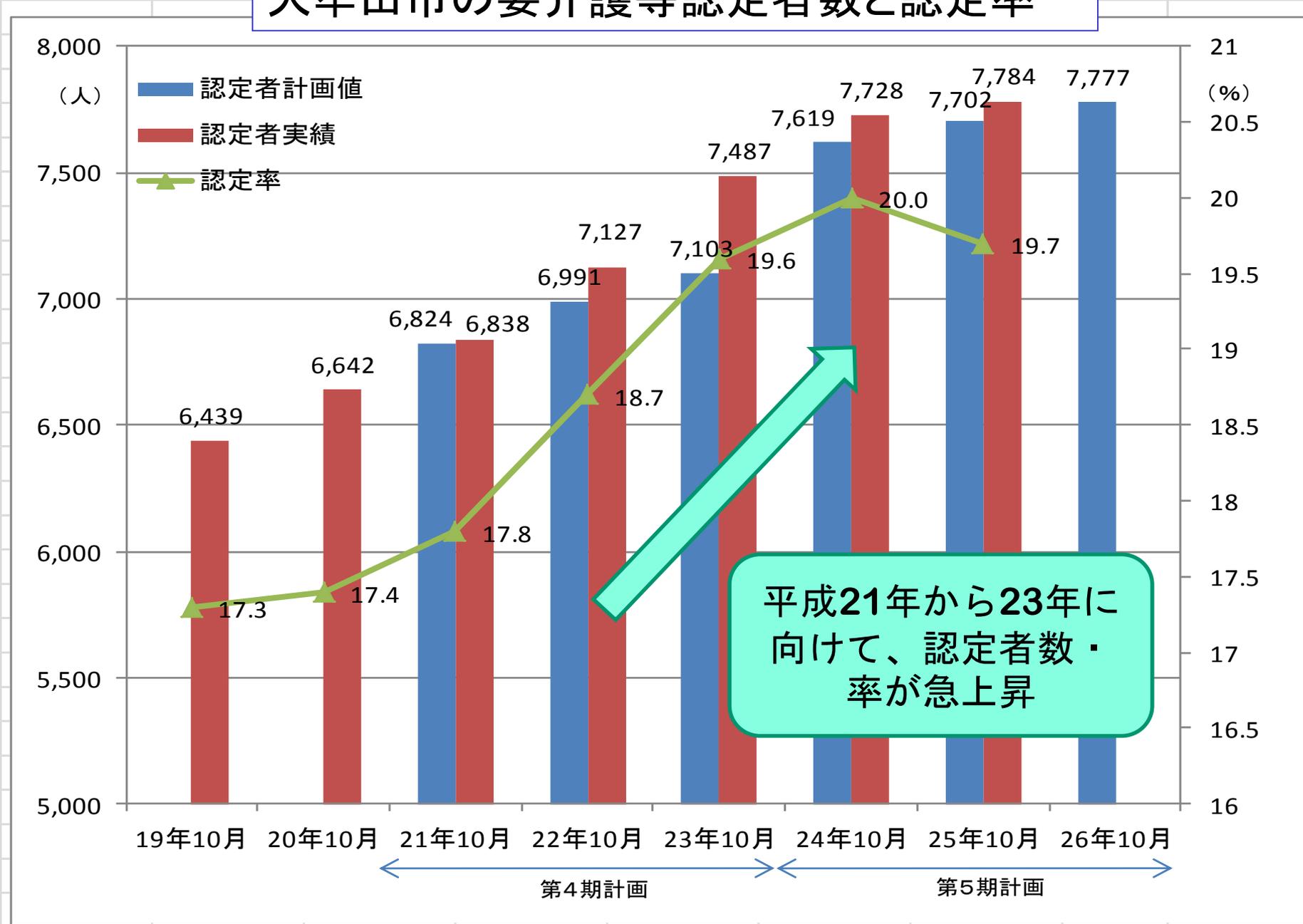
大牟田市の世代別人口推移



○本市では、近年高齢者数の増加そのものは鈍化しているものの、現役世代(15~64歳の生産年齢人口)は今後も減少が見込まれます。

○そのため、高齢者1人を支える現役世代の数も大幅に減少し、平成22年で高齢者1人あたり1.97人と**既に我が国の20年先の状況**です。

大牟田市の要介護等認定者数と認定率



介護予防拠点・地域交流施設を併設する



～地域で暮らし続けることを目的に設置～

(地域支援事業の受け皿として活用を想定)



地域交流施設

小規模多機能サービス

居住系施設(小規模)

住民同士
が馴染みの
関係に!

要支援

要介護者

特定高齢者

元気高齢者

地域住民

地域が舞台

助け合い
支えあい

おかげ
さま

お互い
さま

通い
泊まり
訪問

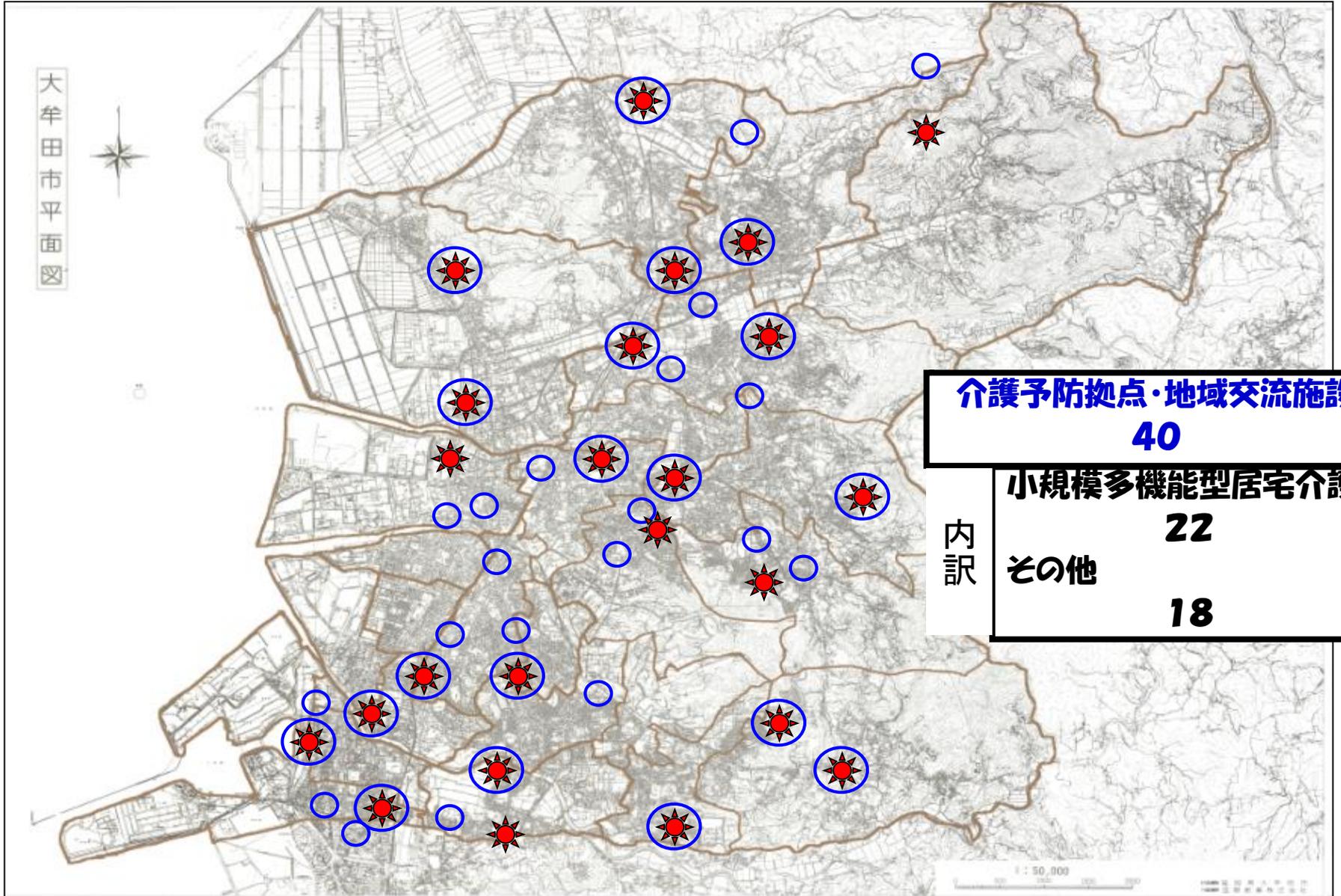


場の提供だけでは不十分!そこに人と人をつなぐコーディネーターが必要である。

小規模多機能型居宅介護・グループホームに併設する地域交流施設には、**認知症コーディネーター**を配置し、地域まちづくりを推進する。

小規模多機能型居宅介護等を活用した介護予防拠点及び地域交流施設の整備状況

(平成26年5月1日現在)

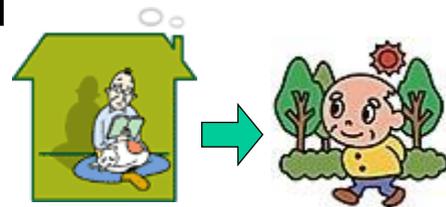


大牟田市の小規模多機能型居宅介護事業所 MAP

平成 26 年 5 月現在



介護予防拠点 『地域交流施設』



- ①地域の様々なつながりを広げていく場所
- ②閉じこもりがちな高齢者の方に出かける機会と場所を提供し、介護予防（健康づくり）の役割をもつ
- ③高齢者だけではなく、子育て世代、幼児から青少年を含め、多世代の交流を図る場所
- ④地域活動や寄り合い、地域ボランティアの活動拠点
- ⑤運営推進会議や利用者家族による会の交流場所



小規模多機能施設及び地域交流施設併設型

小規模多機能型
居宅介護施設部分

地域交流施設部分



介護予防拠点 地域交流施設内観



地域活動拠点 サロン活動



【季節行事】



だんご汁会(H20,11,19)



ご近所の高田さんによるお茶会(H20,10,24)



鏡開き・ぜんざい会(H21,01,10)



もちつき大会(H20,12,21)

【定例の集まり①】



体操教室(筋力アップトレーニング)



大福もちづくり



よかばい体操



革細工教室

【定例の集まり②】



地域 みんなでケーキ作り



子ども会活動



ペン習字教室



お食事会

～多職種協働・多世代交流・地域協働を生み出そう～

認知症コーディネーター養成研修



認知症の人の尊厳を支え、本人本位の認知症支援の牽引役、まちづくりの推進者の育成

2年間の研修を終えたコーディネーター修了生は、所属事業所内で認知症ケアを実践する他、地域に認知症の理解を浸透させるために様々な取り組みを実践



もの忘れ予防・相談検診

～介護予防教室「ほのぼの会」

早期支援



認知症の早期発見・早期対応を目的として、もの忘れ予防・相談検診を実施



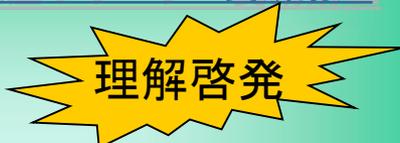
フォローが必要な人は、地域交流施設で開催する認知症予防教室へ

認知症サポートチーム（全国モデル）による継続支援

大牟田市地域認知症ケアコミュニティ推進事業

小中学校の絵本教室

認知症サポーター養成講座



子どもの時から、認知症の人の気持ちや支援について学ぶため、小中学校での認知症の絵本の読み聞かせとグループワーク

地域や職域団体等を対象に認知症の正しい知識やつきあい方を学ぶサポーター養成講座



高齢者等SOSネットワーク

～徘徊模擬訓練～

地域づくり



SOSネットワークの実効性を高めるための模擬訓練（12年目）



認知症になっても安心して暮らせるまちをつくるために、市民へ認知症の理解と見守りの重要性を啓発し、日常的な声かけ・見守りの意識を高めるとともに、徘徊行方不明発生時に対応するSOSネットワークを構築

ケア現場や地域で、認知症の人の尊厳を支え、
本人や家族を中心に地域づくりを推進していく人材

「認知症コーディネーター」養成研修



履修期間 2年間／計 386時間（座学と実践学習、課題実習等）

到達目標

- ①認知症ケアや支援の実践現場において、権利擁護とパーソンセンタードケアを根底にしたより質の高いケアを牽引できる人材育成
- ②地域をフィールドに、認知症になっても誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指して、地域ケアを推進できる人材育成
- ③大牟田市における地域認知症ケアコミュニティ推進事業を担える人材の育成
- ④大牟田市における認知症コーディネーター（地域支援推進員）として役割を担える人材の育成

※履修が修了条件ではなく、『共通理念と協働できる人材か』が条件

脳の健康を守る予防教室「ほのぼの会」

市内6か所の介護予防拠点で実施中



脳の健康を守るために“ほのぼの会”は毎年8月と12月、3ヶ月間にわたり、市内の介護予防拠点で、認知症予防教室を実施しています。笑い仲間づくりで脳活性化を図ります。皆さんも、検診を受け、元気なうちから、予防に取り組みましょう！



もの忘れ予防・相談検診～早期発見・早期対応のために～

1次検診 → 年18回程度 地域交流施設や商業施設等で開催
2次検査 → 年 2回 保健所で実施

地域包括ケアサポートチームが担当

1. 地域包括支援センター
2. もの忘れ相談医
3. 認知症専門医
4. 認知症コーディネーター



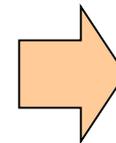
年度	受診者数
18年度	145人
19年度	129人
20年度	262人
21年度	198人
22年度	101人
23年度	391人
24年度	294人
25年度	445人

「支援が必要な人」の割合

約30%

約50%

約30%



鑑別診断
予防教室への参加
介護保険申請など
本人及び家族支援
かかりつけ医への
報告

若年認知症本人交流会・家族の集い語らう会

「認知症のご本人や家族の願いに寄り添って」

●若年認知症本人交流会in大牟田

“ぼやき・つぶやき・元気になる会”

「仲間の役にたち、励まし合いたい！」

毎月1回開催

H23年1月19日は厚生労働省の若年
認知症対策のための意見交換会へ出席
本人交流会からの意見



「認知症になっても、働けるうちはできる
だけ働きたい。今までと同じようにはい
かないけど、耳の不自由な人が手話や身
振りや字に書いてサポートしてもらって働
いているのを見たことがある。
アルツハイマーにもそんなサポートがある
と、自分ももう少し働けたと思う。」

●認知症介護家族のための

“つどい、語らう会” 毎月第3木曜日

13:30~16:00

会場:大牟田市社会福祉協議会(瓦町)

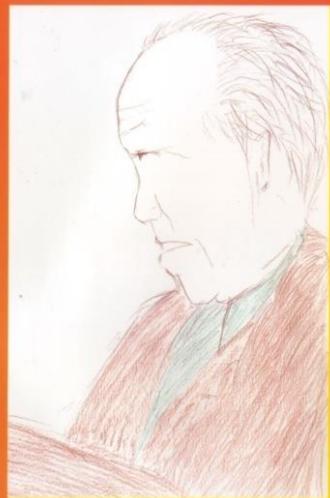


介護の悩み
不安を
語り合い

認知症を学び
互いに
助け合って



子どもたちと学ぶ認知症「絵本教室」



いつだって
心は生きている
大切なものを見つけよう

認知症ケア研究会・作

中央法規

認知症の「人」の
理解が深まることを願って
子どもたちと子供と語り合う
大人や地域のために

どんな絵本？

～第1章～

ものがたり
(全3話)

～第2章～

解説

～第3章～

絵本のねらい
活用方法

どんな物語？

～第1話～

こわい夢

認知症になっても家族を
想う気持ち

～第2話～

くしゃくしゃ笑顔と
や・さ・し顔

「ええとこ探し」

～第3話～

ぼくのおじいさん
は冒険家

「徘徊」を「冒険」と捉える
ユニークな視点

認知症になったおじいさん・おばあさんを
温かく見守るボク(主人公)や
家族、地域が描かれています

平成24年12月17日
甘木中学校 1年生142名



徘徊模擬訓練



一年に一度大牟田市内全域で徘徊高齢者の搜索・声かけの訓練をおこなっています。

大牟田市ほっと・安心(徘徊)ネットワーク



はやめ南人情ネットワークから
全校区へ



徘徊が「ノー」ではなく



安心して
徘徊できる町へ



大牟田から
全国へ



ほっと・安心(徘徊)ネットワーク 情報提供シート

(24年 7月 26日 10時 00分 発信)

〔所在不明者情報〕

氏名： 大牟田 一郎 年齢： 96 歳 性別： 男

住所： 大牟田市有明町

所在不明発覚時の時間（届出）： 7月 26日 09時 30分 分頃

服装：	上	緑色のジャンパー（フード付き） ハイネックシャツ（色不明）		
	下	Gパン		
	履物	運動靴（紺色の線入り）		
	持ち物	セカンドバッグ		
	その他			

身体的特徴：	身長	155 cm	体重	50 kg
	体格	やせ型		
	髪型	頭頂部がはげている		
	その他	眼鏡（上部が黒縁）		

認知症の有無： 有（ 軽度 ）
徘徊歴の有無： 有（ 保護された場所 ）

不明前の様子

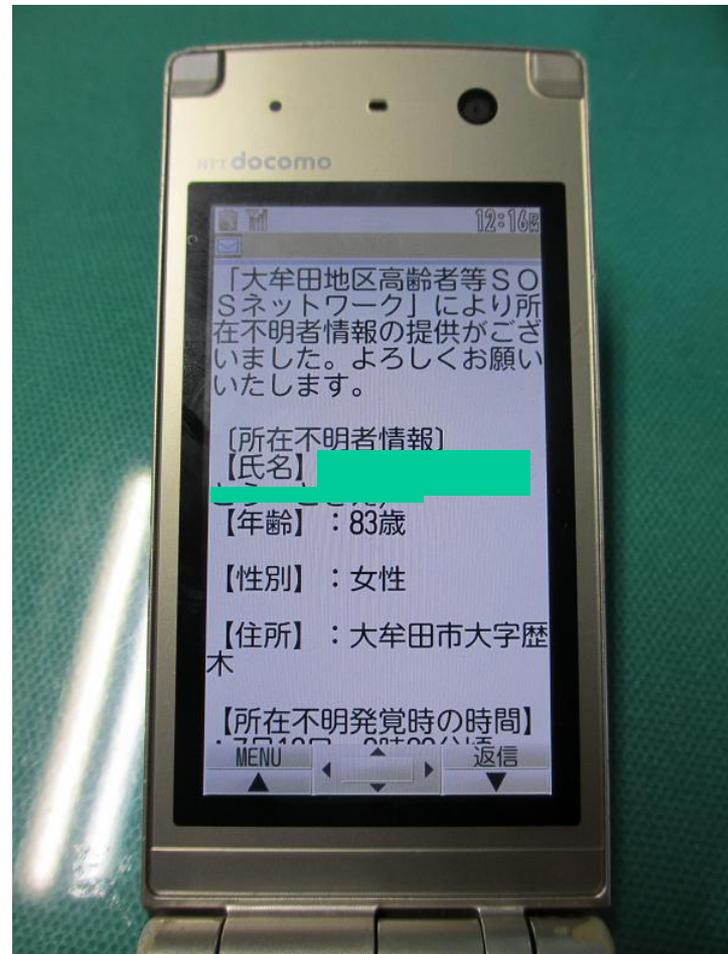
特に問題はなかった

その他（本人がよく通っていた場所や実家等）

〇〇クリニック（白川12-34）

情報提供同意の有無： (有)
消防署へのメール発信依頼： (不要)

愛情ねっと (携帯へのメール送信)



若年性認知症本人のフレンドシップキャンペーン@三池山



例年3月に、若年性認知症当事者とご家族、支援者や帝京大学福岡医療技術学部のボランティア、大牟田市介護サービス事業者協議会認知症コーディネーター研修生・修了生らとともに、“若年性認知症”の普及啓発と当事者の皆さんの健康増進、親睦を図る目的で、大牟田市東部の三池山登山を行っています。

■大牟田市介護サービス事業者協議会

介護サービス事業者の資質の向上、事業者間のネットワーク化による円滑なサービス提供、利用者の立場に立った質の高い介護サービスの研究・実施を目的として、平成12年3月に設立された組織です。認知症ライフサポート研究会やホームヘルパー研究会、小規模多機能連絡会といった部会により、様々なサービスの質の向上に取り組んでいます。

(平成24年3月末会員数：事業者会員80法人260事業所)

■大牟田市介護支援専門員連絡協議会

介護支援専門員の資質の向上とネットワーク化により、自立支援を基本とした介護支援業務の円滑な実施に資することを目的として、平成11年12月に設立された組織です。対人援助専門職としての専門的知識及び技術の向上を図るための研修事業などに取り組んでいます。

(平成24年3月末会員数：事業所会員45事業所、個人会員294人)

大牟田市小規模多機能連絡会 事業内容

会員数:25事業所 市内24カ所市外1カ所

- 実践事例発表会<交流会>
- 各種研修会講演会
- ライフサポートワーク研修
- 認知症研修(認知症センター方式)
- 会員交流会(忘年会)
- 視察

